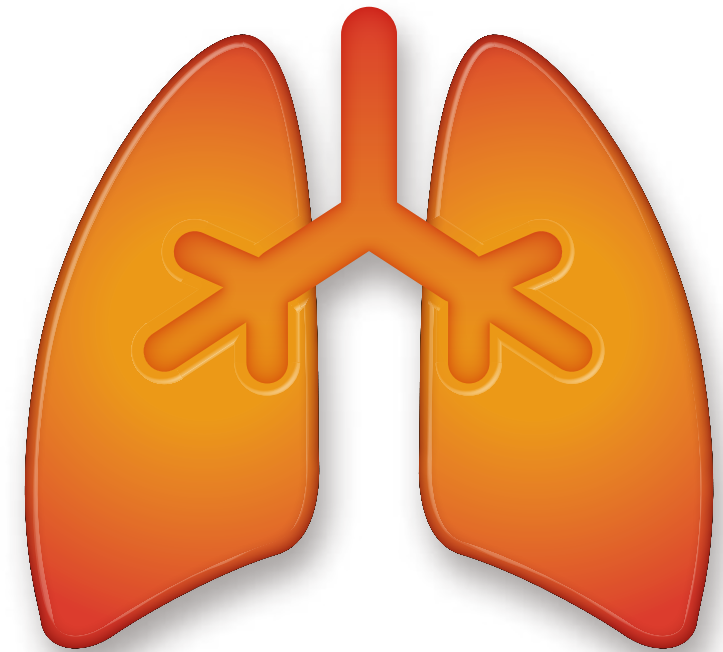


肺動脈性肺高血圧症

アデムパス®錠を
服用される患者さんへ



監修: 久留米大学 医学部 内科学講座 心臓・血管内科部門 主任教授
福本 義弘 先生

医療機関連絡先

肺動脈性肺高血圧症とは

肺動脈性肺高血圧症（PAH:pulmonary arterial hypertension）は、**右側の心臓（右心室）**から肺へ血液を送る血管（肺動脈）が狭くなるために血液の流れが悪くなり、肺動脈の血圧が高くなる病気です。一般的な高血圧症では、左側の心臓（左心室）から全身へ血液を送る血管（動脈）の血圧が高まりますが、PAHは肺動脈の血圧が高まります。

肺動脈の血圧が高くなる病気をまとめて肺高血圧症と呼びますが、その原因により大きく5つに分けられます。

PAHはさらに細かく分けられますが、なぜ肺動脈の血圧が高くなるのか詳しいことはまだわかっていません。



PAHの発症は、他の病気、または先天性の病気に関与している場合や、PAHの発症にかかわるような他の病気がみとめられない場合があります。

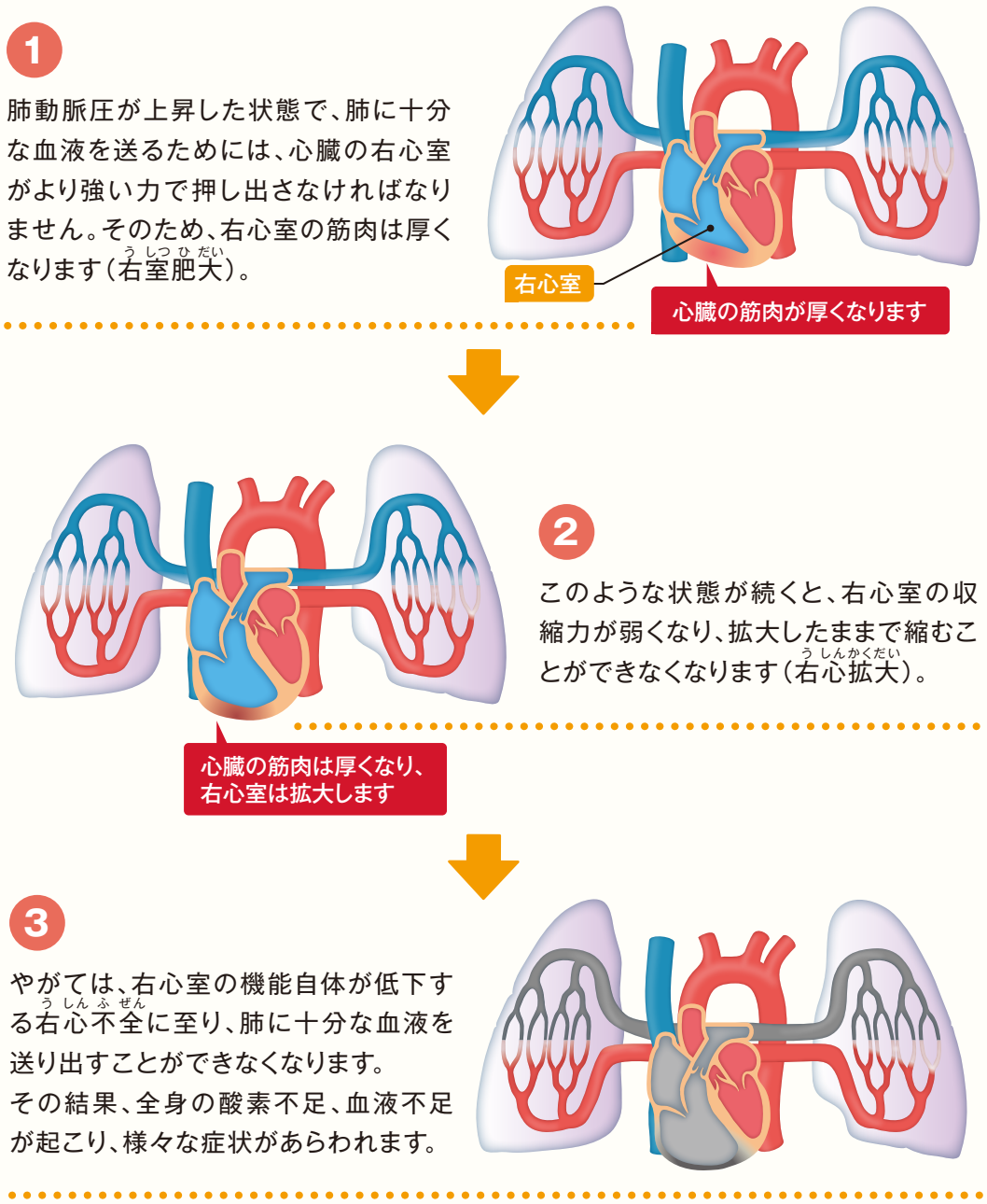
目次

肺動脈性肺高血圧症とは	3
肺高血圧症による肺と心臓への影響	4
PAHの治療について	5
アデムパス [®] 錠について	6
アデムパス [®] 錠の服用方法	7
服用にあたり注意していただきたいこと	8
アデムパス [®] 錠を安全に服用するために	9
アデムパス [®] 錠の副作用	10
日常生活で気をつけていただきたいこと	11

肺高血圧症による肺と心臓への影響

●肺高血圧症になると…

肺高血圧症が進行すると、肺だけでなく、心臓にも影響を及ぼすようになります。



PAHの治療について

PAHの治療には、薬による治療、酸素吸入による治療、手術による治療があります。
患者さんの状態によって治療方法が異なります。

●PAHの主な治療方法

治療方法	治療の内容
薬による治療	【肺血管拡張薬】 肺血管拡張薬は、狭くなった血管の内腔を拡張し、肺の血圧を下げる薬です。 肺血管拡張薬を使用することにより、心臓と肺の負担が軽減されます。 肺血管拡張薬には、経口薬、吸入薬と注射薬があります。 【利尿薬】 利尿薬は尿量を増やして血液量を減らすことで、心臓の負担を軽くする薬です。 心機能の低下などで血流が悪くなり、体に水分が溜まったときに使用します。 【抗凝固薬】 抗凝固薬は血液が固まることを防ぐ薬です。 PAHの患者さんは、肺動脈の末梢に血液の塊(血栓)ができやすいため、抗凝固薬を使用することがあります。
酸素吸入による治療	酸素を十分に取り込めない患者さんは、肺の血管が収縮するため、酸素を吸入する治療を行います。
手術による治療	薬による治療を十分に行っても、治療の効果が得られず病状が進行する患者さんに対して肺移植が検討されます。

アデムパス®錠について

アデムパス®錠は、PAHの患者さんに対する治療薬です。

有効成分は、リオシグアトで、肺動脈を広げる薬です。

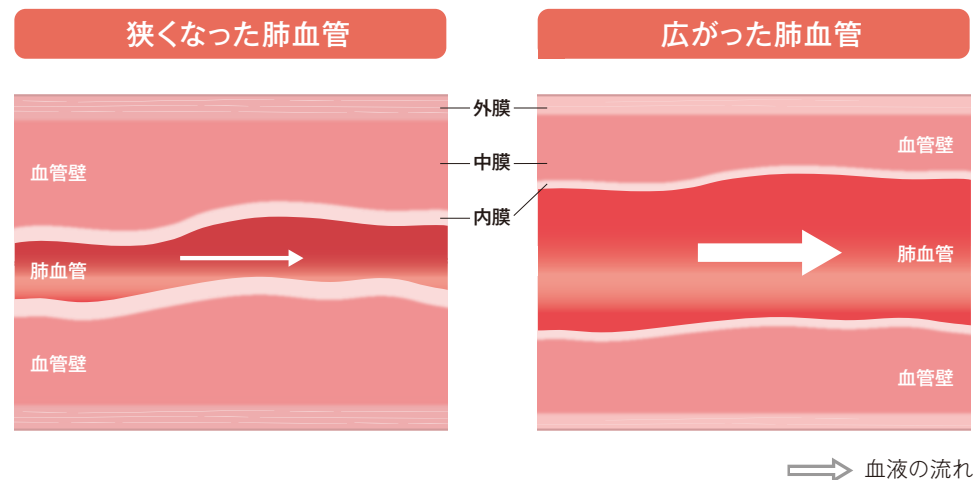
リオシグアトは、血管壁にある酵素を刺激し、

肺の血管を広げる作用を持っています。

肺の血管を広げ、肺動脈の血圧を下げることで、心臓の負担を減らします。

同時に、肺動脈を流れる血液の量を増やし、呼吸を楽にします。

●PAHの肺血管(イメージ)



体内で作られている血管拡張物質の一酸化窒素(NO)のはたらきを增強して、血管を拡張させます。

アデムパス®錠の服用方法

●アデムパス®錠の種類

アデムパス®錠は、3種類あります。



(写真の錠剤は実寸)

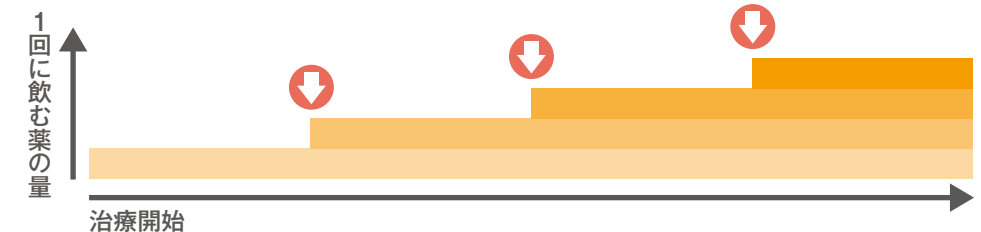
●服用方法

1日3回、医師に指示された量の薬を、
水またはぬるま湯と一緒に服用してください。

1回に服用する量は患者さんによって異なります。症状が落ち着いていても、薬を勝手に減らしたり、中止したりすると病状が悪化することがあるので、必ず医師の指示どおりに服用してください。

薬の飲み始め

医師が患者さんの症状を確認しながら、薬の量を決定します



少ない量から飲みはじめ、徐々に薬の量を増やしていきます。数週間かけ、医師が患者さんの症状を確認しながら、最も適した1回に飲む薬の量を決定します。

この段階的な服用方法は、低血圧症状などの副作用を起こさないために、とても大切です。

低血圧症状などがあらわれた場合には、1回に飲む薬の量を減量することがあります。

服用にあたり注意していただきたいこと

- 毎朝血圧を測定し、血圧や症状の変化がないか確認することをおすすめします。

アデムパス®錠の副作用で低血圧症状（めまい、たちくらみなど）があらわれることがあります。
変化を見逃さないよう、血圧や体調を記録する習慣をつけましょう。

- 毎日3回規則正しく服用しましょう。

服用間隔は、約6～8時間にしてください。
あらかじめ薬を服用する時間やタイミングを決めておくといでしょう。

- もし、薬の飲み忘れに気付いた場合は、次の服用時間に1回分を服用して、内服を再開してください。**絶対に1度に2回分は服用しないでください。**

- 誤って多く飲んでしまった場合は、医師または薬剤師に相談してください。

- 治療の進行や症状に応じて、1回に服用する薬の量が変わることがあります。
ご自身で判断せず、医師の指示どおりに服用してください。



アデムパス®錠を安全に服用するために

次のような方は、アデムパス®錠による治療が受けられません。

該当する方は、治療を受ける前に、必ず担当の医師に伝えてください。



- アデムパス®錠の成分に対し、以前に過敏症（発疹、かゆみなど）が出たことがある方。
- 妊婦または妊娠している可能性がある方。
- 肝臓に重い障害がある方。
- 腎臓に重い障害がある方、もしくは透析中の方。
- ニトログリセリン、亜硝酸アミル、硝酸イソソルビド、ニコランジルなど、血管を広げる薬で治療中の方。
- シルденаフィルクエン酸塩（レバチオ®、バイアグラ®）、タダラフィル（シアリス®、アドシルカ®）、バルденаフィル塩酸塩水和物など、ホスホジエステラーゼ（PDE）5阻害剤で治療中の方。
- ベルイシグアトで治療中の方。

また、以下に該当する方は、服用の際に特別な注意が必要になることがあります。

該当する方は、治療を受ける前に、必ず担当の医師に相談してください。



- 抗凝固療法を行っている方。
- 肝臓や腎臓に障害のある方。
- アデムパス®錠による治療を始める前の収縮期血圧が95mmHg未満の方。
- 肺静脈閉塞性疾患（肺の静脈が詰まる病気）の可能性がある方。
- 喫煙中の方。
- 授乳中の方。
- 現在、他の薬を服用中の方。
お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性がありますので、
市販薬も含め、現在服用中の薬がある方は医師または薬剤師に伝えてください。

アデムパス®錠の副作用

アデムパス®錠のおもな副作用として、以下のような症状が出ることがあります。

・頭痛	・消化不良
・めまい	・低血圧
・吐き気	・下痢
・貧血	・ほてり

このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに起こる重大な副作用として

咳と共に、口から血を吐いたり、血の混じった痰が出ることがあります。
このような症状があらわれたら、アデムパス®錠の服用をやめ、ただちに担当の医師に連絡してください。

上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

日常生活で気をつけていただきたいこと



新しく他の薬を服用すると、アデムパス®錠の効果を強めたり、弱めたりすることがあります。他の薬を新たに服用する場合は、必ず事前に医師または薬剤師に相談してください。

副作用でめまいが起こることがあります。高所での作業や自動車の運転などには十分注意してください。

喫煙がアデムパス®錠の作用を弱めることがわかっています。
禁煙するようにしてください。

胎児に影響を及ぼす可能性があるため、アデムパス®錠の服用中は妊娠できません。服用開始後は確実な避妊をおこない、万一妊娠した場合はすぐに医師に相談してください。

アデムパス®錠は乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。